

バルツァ・ゴードル 2025 年度 事業計画

1. 法人理念

「Life is Beautiful」 とともに手をつなぎ、こころ輝く人生を創造しよう。

実践のために

- ご利用者だけでなく、職員も含めてどの人も「わたしらしく生きる」を目指します。
- 一施設完結型ではなく、他施設・組織と協力し合うことで「奈良の」「日本の」重症児者医療福祉を支えます。
- 様々な人と出会う中で、ケアする私たちも成長し、より良いケアへとつなげます。
- 尊厳を守り、「その人らしく最期まで生ききる」ことを支えます。

2. 事業方針

バルツァ・ゴードルは、利用者一人ひとりの最善の利益を追求し、多職種協働のもとで全人的で「わたしらしく生きる」ことを支えるケアを提供することを目指します。また、地域との連携を強化し、より開かれた施設としての役割を果たすため、以下の方向性に沿って事業を推進します。

目指す方向性

1. 呼吸器利用者の受け入れ強化

- 在宅療養支援の一環として、ショートステイや（有期限）入所の受け入れを増加させる。

2. チーム・バルツァによる利用者にとっての最善の利益の追求

- 多職種協働を実践し、協働意思決定（Shared Decision Making）を推進。
- 人生会議（ACP）を行い生老病死を支える。

3. 地域との連携強化

- 近隣病院や重症児者施設と連携し、地域全体で支える仕組みを構築。
- ネットワーク作りを進め、地域住民にもバルツァ・ゴードルの役割を広く周知し、地域に開かれた施設とする。

4. 重症心身障害児者を「地域」で支え育てる

- 「子育て」を「孤育て」にさせず、家族が孤立しないよう支援する。
- つながりを作るため、多職種協働でのサポート体制を強化し、入所・ショートステイ・リハビリだけでなく支援者支援も行う。
- バルツァから発信し、自分たちの言葉で伝え、多様性を認めるインクルーシブな社会を目指す。

5. ビジョン

- 訪問診療や重心看護ステーション、奈良県南部のショートステイの拡充。
- 家族支援・きょうだい支援も行うことで、子どもホスピスとしての機能を担える施設となる。
- 「どの人も輝ける場所・みんなのパワースポット」としての施設の確立。

3. 2025 年度の目標と具体的な取り組み

インクルーシブな社会を具現化するためにも、重症児者を知ってもらうことからスタートとなる。昨

年度は、出会いを大切に、「重症心身障害児者とは、重症心身障害児者施設とは」を知ってもらうために活動を行った。それに続いて本年度は、「知ってもらう」から「自らの言葉で伝える」をテーマとして実践する。

上記の方針を実現するため、以下の取り組みを進める。(各科の目標や計画を記載)

(1) 看護体制・リハビリテーションの強化

- 利用者が安心・安全に過ごせるよう、病ませない体づくりに重点を置く

(2) 協働意思決定の推進

- 自分自身を知ること。(自分の価値観や死生観を知る。振り返る力をつける。)
- 職員自らが自身の考えを持ち、考えを伝えられる人となる。
- 職種を超えたディスカッションを行い、ご利用者の最善、幸せとは何かを模索。
- 「正解を探す」のではなく、利用者にとって最適な選択をチームで考える文化を醸成。

4. 医局の2025年度目標

- 地域基幹病院の医師と顔の見える関係性作り。
- OT、心理士を確保し、発達障害外来の開設を目指す。
 - 小児神経科医師来園日の午後診で専門外来を実施し、貴重な小児神経専門医による診察を奈良の人に提供する。
- 若手(非常勤)医師の確保。
 - 将来の常勤医や地域の病院で重症児者を抵抗なく診察できる医師の育成に協力する。

5. 期待される成果

- 呼吸器使用者の受け入れ体制が整い、在宅療養支援の選択肢が拡大する。
- チーム・バルツァの多職種協働により、より質の高いケアが提供される。
- 地域との連携が強化され、施設が地域社会の一部として機能する。
- 利用者が安心してその人らしい生活を送ることができる環境が整う。

看護療育部

看護部理念

「わたしらしく生きる」ことができるように優しい心で向き合う看護・療育を提供します。

看護療育部の目標

- 1, 利用者の人権と命の尊さを伝えることができる看護・療育を実践する
- 2, 教育体制を整え、質の高い看護・療育を実践できる人材を育成する
- 3, 多職種と協働したサポート体制で利用者・家族を支援する

1階病棟目標

- 1, 利用者の思いを代弁し、尊厳を守るケアを提供することができる
- 2, 重心看護・療育について共に学ぶ環境を作り、看護・療育の質を向上させる
- 3, 利用者・家族にとって最良のケアを多職種協働で提供することができる

2階病棟目標

- 1, 利用者の健康と安全を守り、楽しみを感じながら生活できる環境を提供することができる
 - ・利用者の人権を尊重して接することができる
 - ・安全で安心できる生活空間を提供することができる
 - ・感染予防への意識を高め、個々がスタンダードプリコーションの手技を取得できる
 - ・利用者中心の行事や活動の企画・実施ができる
 - ・未就学児には設定保育を提供し、個々の身体・情緒の発達につなげる
 - ・インシデントレポート（転倒）は、0をめざす
- 2, 問題意識を持ち、課題克服にむけて行動を起こすことができる
 - ・自己の課題を見出し、課題達成の為の計画・実践ができる
 - ・eラーニングを活用し、個々が向上することができる
 - ・看護研究を目標に問題意識をもって援助することができる
 - ・新採用者へのオリエンテーション方法やマニュアルを見直し、働きやすい環境を定着させる
- 3, 利用者と家族が希望する援助を他職種連携で提供することができる
 - ・コミュニケーション力と観察力を磨き、利用者と家族の思いを導き出し利用者中心の考え方・援助ができる
 - ・積極的にショートステイの受け入れができるよう協働する
 - ・利用者中心の個別支援計画を立案しケアカンファレンスを開き、ケアの充実を図ることができる

リハビリテーション科

全体

入所者様、外来利用者様に対するリハビリテーション業務において、1日平均12単位を目標にリハビリテーション介入を行っていく。

病棟スタッフ、学校の先生との情報共有を行い、利用者様の潜在能力を引き出すとともに、QOLが向上するような関りとともに検討していく。また、リハビリテーション科内でも適宜情報共有を行い、他職種が連携したリハビリテーションが提供できる環境を作っていく。

多職種で協働して姿勢保持装置や装具の作製を行い、利用者様のQOL改善に努める。

病棟で実施される活動には準備の段階から積極的に参加し、利用者様が主体となって楽しめる活動を病棟スタッフと協力しながら考えていく。

リハビリテーション科内でケーススタディ、勉強会を行い技術の向上、意識の統一を図る。

リハビリテーションを目的としたショートステイ利用において、利用者様やご家族様が自宅で安心して快適に過ごすための関りをともに検討し、提供する。

PT（理学療法）

入所者様、外来利用者様、ショートステイ利用者様に対してのセラピストが少ないので、利用者様の状態に合わせた頻度設定を行い、より良いリハビリテーションを提供する。

端坐位や立位といった普段とらない姿勢をとることで、身体機能の維持、改善につなげる。利用者様個人の状態や特性に応じたリハビリテーションプログラムを考え、病棟活動にも取り入れやすいように工夫していく。呼吸器系に問題がある方や、排痰に問題がある方に対しては、呼吸理学療法や排痰介助を行い、状態の悪化を早期に防ぐように努める。

研修や学会に参加し、自己研鑽を行う。また、学会発表を行う。

ST（言語聴覚療法）

セラピストが行っているマッサージなどを病棟に伝達し、活動など日常場面での関りに繋がられるように、情報共有を行っている。年齢や医療度の幅が広がっているため、利用者様それぞれの状態・特性に合わせ、発達促進へのアプローチを行い、今出来ることをこれからも続けていけるように、生活に即した関りを行っていきたいと考えている。

訪問教育の授業場面に参加することで、授業のつながりを大切にしたり、訪問歯科との連携によって、よりよいケアの提供に繋げることができたりするように、協働していきたいと考える。

外部研修への参加をはじめ、ST内でも研修を行ったり、日常的にディスカッションを行ったりすることで、多角的評価を行い、利用者様により良いリハビリテーションを提供できるように、研鑽を積み重ねていきたい。

栄養課

〈給食管理〉

○安定した厨房業務体制

厨房業務は労務委託業務を継続している。委託業務先の責任者及び栄養士を含むスタッフとのコミュニケーションを引き続き重視していきたい。

利用者様の平均年齢の上昇または重症度の高い利用者様の対応も年々増えていく中で、食事に対する要望も高くなっていることから、形態調整食について安定的に提供できるよう厨房スタッフとの連携を大切にしたい。また、感染症及び災害時における厨房の在り方についても、体制を整えていく必要があると考える。

○食事に対する課題

利用者様の年齢、重症度等に伴う身体的変化に対応していく段階にきている。適切な食事内容を検討し提案していく。また、終末期における利用者様及びご家族のご要望等に寄り添えるように努める。そのためにも実状を把握し多職種との連携を図りたい。また、ご家族様との対話をとおして、嗜好などを把握し反映させていきたい。経管栄養の利用者様にも日々の食事の楽しみを味わえる機会を多く触れられることができるように、胃瘻食（注入食）の積極的な移行も病棟と連携しながら引き続き進めていきたい。

○安心・安全な食事の提供

- ① 厨房内の清掃業務等を明確化し、全従業員が内容を周知し、清潔を保つ。
- ② 栄養課は厨房と情報を共有し、食べやすさだけでなく食事としての内容（見た目、季節感等）にも配慮した食事の提供に努める。

〈栄養管理〉

○栄養（再）評価及びNST運営の継続

引き続き栄養（再）評価については、年3回を目標に評価していく。

電子カルテの導入により、情報収集及び多職種連携についてはさらに強化できると考えており、NST運営、褥瘡対策等については、積極的に取り組んでいきたい。また、栄養評価の課題については、利用者個々の課題に目を向け、日々の生活を充実するために必要な課題の抽出に努め、引き続き病棟スタッフと更なる連携を図り、栄養面や摂食嚥下の評価を含めた課題に取り組める環境作りに努める。

○実習生の受け入れ

今年度も実習生受け入れ基準に準じて実施していく予定である。受け入れ中の業務は非常に煩雑になることが予想されるが、受け入れによる相乗効果を大切にしたい。また、厨房や各課とも連携した実習時間を構成できるようにしていきたい。

○地域支援など社会的需要に応えられるための体制整備

短期入所の受け入れ数の増加に伴いご家族または、その方たちを支える地域の事業所などと繋がり、協働していきたい。また、外来患者への食事に関する相談等の依頼については対応をしていきたい。奈良養護学校バルツァ教室においても食育を通してさまざまな取り組みを協働している。本年度も味噌づくりをはじめ食に関する体験を含めた連携などなどについても継続して実施できるようにしていきたい。

医療相談室

昨年度6月より立ち上がった部署のため、院内での役割を模索しながら業務を行ってきました。

中でも院内における各部署間の調整、スタッフやご利用者さま及びご家族さまとの対話を大切にしてきました。

<目標と具体的な取り組み>

- 1, チーム・バルツァとして利用者にとっての最善の利益追求にとって必要なスタッフの質の向上
 - ・スタッフどうしが互いに笑顔で挨拶を交わすことができる環境づくり
 - ・ご家族さま及び来院者が入りやすい環境づくり
 - ・互いを尊重し、意見を交わすことができる環境づくり
- 2, 地域との連携強化
 - ・地域連携室とも協働しながら地域とのつながりがもてるように取り組んでいく
 - ・ショートステイなどを通じて在宅で過ごす家族との関わりを大切にする
- 3, 安定的な人材確保への協力
 - ・チーム・バルツァのスタッフを安定的に確保できるよう、各部署との連携を図りながら、必要人材の確保への協力を努める

事務部

事務部の目標

1.効率的な事務処理体制の構築

→勤怠管理システムの導入検討や外部委託を活用し、業務効率を向上

2.安定した財務基盤の確保

→助成金・補助金を最大限活用し、経営を安定化

3.ご利用者と家族、スタッフに寄り添う窓口対応

→言葉使いなどを含めた接遇5原則（挨拶・身だしなみ・言葉遣い・表情・態度）の再確認を行い福祉施設としての信頼性を向上

・労務、経理

人材確保・定着・離職防止につなげていけるよう実現可能な働き方等提案できるよう、他事業所、部署内で情報収集・情報共有を積極的に行い、働きやすい環境となるよう考えていきたい。

物価上昇・光熱費の高騰の影響をうけるため、節約、節電等可能なところを考え提案できるようにする

- ・ 総務

- ・ 医事

昨今の IT 推進により、請求ルールも目まぐるしく変化している。また、明文化されている以外のルールが細かく存在している為、派遣職員や他施設との情報共有を積極的に行っていきたい。

窓口対応に関しては、ご利用者様、ご家族とのコミュニケーションを大事にし、各部署に円滑に繋げていく為の共通認識を明確化していく。